

平成 21 年 4 月 30 日

各 位

上 場 会 社 名 株式会社セラーテムテクノロジー
代 表 者 名 代表取締役社長 今 井 一 孝
(コード番号 4330 大証ヘラクレス S)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 6 月期第3四半期において、下記のとおり特別損失の計上を行うこととなりましたので、その概要をお知らせするとともに、近時の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 1 月 30 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 6 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	一 株 当 た り 当 期 純 利 益
前回修正予想 (A)	2,000	△ 320	△ 350	△ 360	△ 4,509 円 41 銭
今回修正予想 (B)	1,880	△ 360	△ 380	△ 910	△ 11,398 円 79 銭
増 減 額 (B-A)	△ 120	△ 40	△ 30	△ 550	△ 6,889 円 38 銭
増 減 率 (%)	△ 6.0	—	—	—	—
(ご参考)前期実績	2,378	△ 241	△ 268	△ 336	△ 4,211 円 88 銭

< 修正の理由 >

経済環境の悪化およびその悪化に起因する市場動向の変化の影響が、当初の予測を上回っており、当社の最大市場である北米および欧州市場において売上高の減少が見込まれます。また、日本韓国を中心に展開していたデジタル文書圧縮配信(Doc)分野を、今期から欧米市場に向けて再び展開したものの、不振に終わっており、売上高は当初の業績予想を下回る見込みとなっております。

前回の業績予想発表時に比べ、欧米市場の経営環境は一層悪化しており、主力製品であるフォント管理分野および DAM 分野に関する売上の減少を経費削減でカバーしきれなかったことなどから、営業利益につきましても、当初の予想より悪化いたしました。

また、四半期純利益につきましては、下記のとおり特別損失を計上することから、当初の予想に比して悪化いたしております。

以上の見込みから、上記の通り、業績予想を修正いたします。

2. 特別損失の計上について

1. 投資有価証券に関する事項

(1) 米国 Equilibrium 社向け投資および貸付について

平成 21 年 6 月期第3四半期において、当社連結子会社が保有する投資有価証券において、会計上の減損処理による投資有価証券評価損 198 百万円を計上いたしました。また、同社に対する貸付金について、貸倒引当金繰入額 109 百万円を計上いたしました。

米国 Equilibrium 社の最大市場である北米市場は、昨年末から急激な景気後退に陥っており、同社の業績も当初予想から大幅に悪化しております。同社は資金調達を企図するなど、早急な会社財産の回復を図っておりますが、北米経済情勢の急激な悪化から、業績および財務基盤の回復が明確とはいえない状況です。こうした状況に鑑み、保守的な会計処理を行う見地から、同社向け投資の減損および貸倒引当計上を実施するものです。

(2) 韓国向け投資について

当社は、平成 18 年に韓国の Morning IT 社と ePapyrus 社に対し、デジタル文書圧縮配信(Doc)分野の業務提携を図るべく出資を行いました。両社とも業績が悪化したため、平成 20 年 6 月期において、減損処理を行っております。しかし、その後も韓国経済の急激な悪化により、両社の業績は低迷しております。当社は、平成 20 年 12 月に韓国支店を閉鎖し、さらにはデジタル文書圧縮配信(Doc)分野の事業展開の見直しを行っていることから、両社に対する投資の回収可能性は今後さらに不透明になると考えられます。

そのため、当社は、Morning IT 社および ePapyrus 社に対する投資を処分する方向で検討しており、今後、平成 21 年 6 月期第4四半期において、31 百万円の特別損失を追加計上する見込みです。

2. 事業再構築に関する事項

本日付「代表取締役の異動に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、昨今の急激な業績悪化に鑑み、グループ全社的に事業再構築の実施を開始しております。その為、平成 21 年 6 月期第3四半期に北米連結子会社において、人員削減など事業再編に関する費用が発生したため、事業再編損として 26 百万円を特別損失計上いたしました。

本事業再構築は当会計年度中の完了を目処としており、今後、平成 21 年 6 月期第4四半期においても 40 百万円の特別損失を追加計上する見込みです。

3. のれんの減損に関する事項

当社単体の財務諸表において、当社の 100%連結子会社である米国 Celartem,Inc.への関係会社株式の評価減4,166 百万円を計上します。これは、北米の経済情勢が悪化する中、同社の過去の実績や今後の業績予想などを勘案した結果、Celartem,Inc.の超過収益力の見直しを行い、Celartem,Inc.において然るべく減損処理を行ったために計上される評価減であります。

この関係会社株式の評価減そのものは、親会社単体の財務諸表において計上されるものであり、連結

財務諸表においては計上されません。しかしながら、超過収益力の見直しを行った結果、連結財務諸表においても、のれん減損損失 114 百万円を計上いたします。

(参考) 親会社単体損益

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
当第3四半期累計期間実績値 自 平成20年7月1日 至 平成21年3月30日(9ヶ月)	75	△ 222	△4,397
前期実績値 自 平成19年7月1日 至 平成20年6月30日(12ヶ月)	214	△ 199	△ 265

4. 以上、平成21年6月期第3四半期(平成21年1月1日から平成21年3月30日まで)に計上した特別損失をまとめると以下の通りとなります。

投資有価証券評価損	198 百万円
貸倒引当金繰入額	109 百万円
事業再編損	26 百万円
のれん減損損失	114 百万円
その他	8 百万円
合計	455 百万円

(注)上記に加え、平成21年6月期第4四半期においても、71百万の特別損失を計上する見込です。

3. 今後の経営対応について

当社は、今期における業績の急激な悪化について真摯に受け止めており、欧米経済を中心に経営環境が大きく変動している中で、早期に業績を回復し、黒字化を実現するため、本日付の「代表取締役の異動に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、既に事業再構築活動を開始しております。今後、この事業再構築を進める一方、新たな経営計画を策定しており、内容が固まり次第公表いたします。

なお、当社グループは無借金経営であり、当第3四半期連結会計期間末における現金および現金同等物残高は601百万円を有しており、営業活動に必要な資金は十分確保されております。

北米に端を発した全世界同時不況により、当社の主力市場である欧米市場を取り巻く環境は一層厳しいものとなっておりますが、安定的にビジネスを進める上での適正な財務健全性を維持するよう努めてまいります。

以上

(注)上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

当社は、個別業績予想は開示しておりません。



■ 本件に関する報道関係お問い合わせ先
株式会社セラールテムテクノロジー IR担当

TEL: 03-5408-5780 <http://www.celartem.com/inquiry.asp>